

上州新花百の山から桐生アルプス？を歩く  
鳴神山～吾妻山

実施日 2016年4月23日(土)

天候 薄曇り

リーダー 涌井 良明

参加者 涌井良明、遠井兼策、宮崎敏男  
計3名

費用 員3,870円(浅草起算)/員1,450円

タイム 新桐生(9:00)駒形登山口(9:25~30)水場(10:18)肩ノ広場(10:42~45)東峰・桐生岳(10:52~11:00)西峰・仁田山岳(11:08)800円地点(11:40~12:10)昼食)花台沢ノ頭(12:21)三峰山(12:40)金沢峠(13:00)大形山(13:20~25)女山・反射板P(14:45~50)吾妻山(14:57~15:05)登山口(15:30)桐生駅(16:10~43員)

当初の泊計画に参加予定の方には申しなかったが、L都合で日帰り計画に変更してもらい、結果的に久しぶりにオヤジ(とさせてね)3人組の実施になった。後半の縦走路は行き交う登山者も少なく静かで快適な尾根歩きを楽しめた。もちろんいつもの華やかさ・賑やかさはないものの口の達者なメンバーに助けられてつつ苦しい登りも退屈せずに、桐生駅までのロングトレイルを完歩出来た。駅での麦泡ジュースは美味かったねえ！

お付き合いいただいた、メンバーお二人に感謝です。



さて、新桐生からの車で駒形登山口に着くと両側にびっしりと路駐の列。予想外の凄まじい人気、なんで？？

どうも鳴神山付近の希少固有種のカッコソウを目当てらしい。今回は残念ながら目にすることは出来なかった。

おやじ三人組は芽吹きを迎えた気分の良い沢に沿った森の登山道を進み、明るい水場を過ぎると沢を離れて一気に尾根へ登ると肩ノ広場にでる。山頂へ5分の標識もある、斜面を急登して頂稜にでると左右が山頂の双耳峰だ。右に桐生岳に向かう、アカヤシオが彩る岩付を僅かで狭い山頂に着くが、人で埋まっている。

石祠と山名銘板、周囲の展望はすこぶ

る良いが、今日は曇り空で近場の山々が見通せる程度だ。居場所もなく昼には早いので写真を撮って、頂稜を戻りついで



に西峰の仁田山岳に寄る、展望はなく、咲き始めたアカヤシオと山名板があるシンプルな山頂だ。くだんのカッコソウはこの先桐生

近くの他、数箇所に保護された養生地があるらしい、次来る機会があれば見たい。

肩ノ広場へ戻ってナガ～イ桐生駅へのトレイルを始める。尤も徐々に下ルートなので気分的には多少は、ね。

萌黄色が目立ついかにもといった明瞭な尾根を進む。短めの登降を繰り返してから、800円の小ピークで昼食、薄日も

射して男三人のんびり、恒例の差入れがないのが少し淋しいかも。花台沢ノ頭、



石祠のある三峰山を越して金沢峠へ、ここから縦走路一番の130円の登りをメン

バーの健脚に追立てられるように踏ん張って登り大形山に着く。

桐生の街が大きく開けたまだ苗木の植林帯を過ぎ西芳寺沢ノ頭を越すと、関東ふれあいの道となって階段道が多くなり、電波反射板の女山から更に下って、

登ってやっと吾妻山に着く。前方に桐生



市街が開けた展望台である。山頂は群大の学生諸君の占拠状態だった。

ここから下山のみだが、この街への下りが今日の核心部のようで最も気を遣うものだった。岩交じりの急坂の道は途中二カ所で男坂・女坂と二通りの道になり、どちらも男坂を下るが、それまでの穏やかな尾根道に比べ岩場の下りに緊張させられた。

吾妻山登山口で山道は終わり、しばらくで跨道橋を渡り道なりに下って吾妻山公園Pから街中を桐生駅に出た。

コースタイム6時間20分、休憩込で6時間40分。春の1日歩き易い尾根道の快調なトレイルを楽しめた。

でもカッコソウも見なかったな！

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・遠井 兼策)